



## 第15期 2023年度 事業報告

# 特定非営利活動法人ふうどばんく東北 AGAIN

〒981-3341宮城県富谷市成田1-5-4  
TEL 022-779-7150  
FAX 022-774-1410  
MAIL [info@foodbank.or.jp](mailto:info@foodbank.or.jp)  
HP <https://www.foodbank.or.jp/>  
(営業日 平日月曜～金曜 受付時間 10:00～17:00)



# フードバンク事業

「フードバンク活動」とは、家庭では食べない食料品や賞味期限の迫ったものを個人から集めること、また企業からは安全に食べられる状態でありながら包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通することのない食品を寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動です。当団体では、立ち上がった2008年からこの活動を続け、支援する団体や個人は多岐に及び、現在結び付いている企業・団体は400に及びます。

## 2023年度の総括

2023年度は過去最多の寄贈重量となり、支援した人数・支援重量もまた過去最高となりました。宮城県だけでなく、他県からもコロナ療養者向け食料品を受け入れ、それを賞味期限内に配布するという調整業務が発生しました。受け入れのため、急遽倉庫を3つ増設、大型トラックによる引き取り作業や現地輸送、ボランティアさんによる配達が毎日のように行われ、予想外の大変な作業となりました。しかし、そのお陰で年々増える困窮者支援やこども食堂などのニーズに応える事も出来ました。

また年明けには『令和6年能登半島地震』が発生しました。発生の数日後には、現地入りする団体よりニーズを確認して、直ぐにプッシュ型の食料・物品の配送を開始しました。当団体からの配送は現在までに20回を超えますが、その度にSNS等で必要な物資を呼び掛け、それに応える形で沢山の企業・団体や個人の皆さんが事務所まで寄贈品を持ち込んでくださいました。時には野菜、時にはストーブ・・・と、現地のニーズをお伝えするたびに応えてくださる方たちがいて、人の優しさに支えられた支援となりました。

また当団体にとって2023年は、「移転問題」で揺れた一年でもありました。大型荷物の受け入れが可能な敷地や冷凍設備を併設出来る賃貸が最寄りに無く、移転先が見つからないまま過ごしていたところ、近隣に新社屋を建設する予定の「株式会社ジェーシーアイ」様が、当団体の事務所を追加で併設してくれることになり、無事これまでのような活動を続けることが出来るようになりました。

フードバンクの支援は、コロナが5類になった現在も増加の一途をたどっており、それを支えるために資金面やハード面で様々な課題に日々直面しています。当団体のような活動が必要になる一歩手前で、もっと公的な資金の投入や手厚い社会福祉、自立支援など、根本的な解決を促す支援を行う事は急務であると感じます。

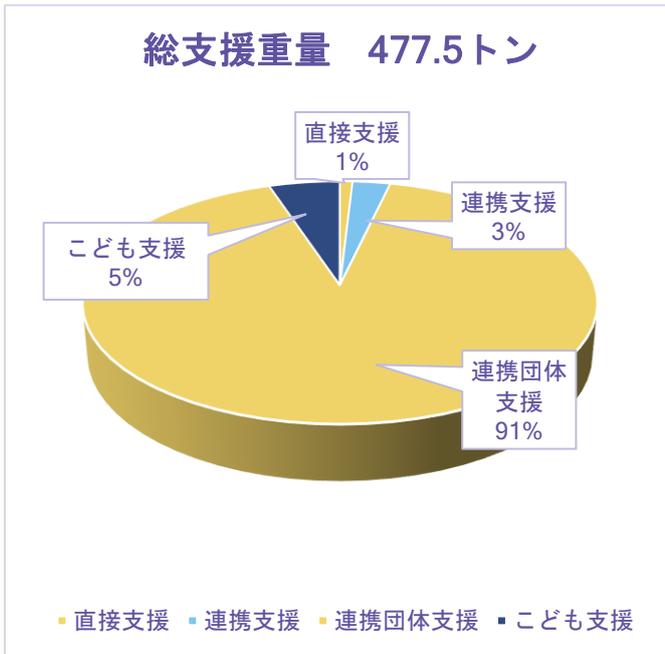


コロナ備蓄品受け入れの様子



学生に向けた支援

## 2023年度 総支援重量



### 【支援内訳】

○直接支援 4.4トン

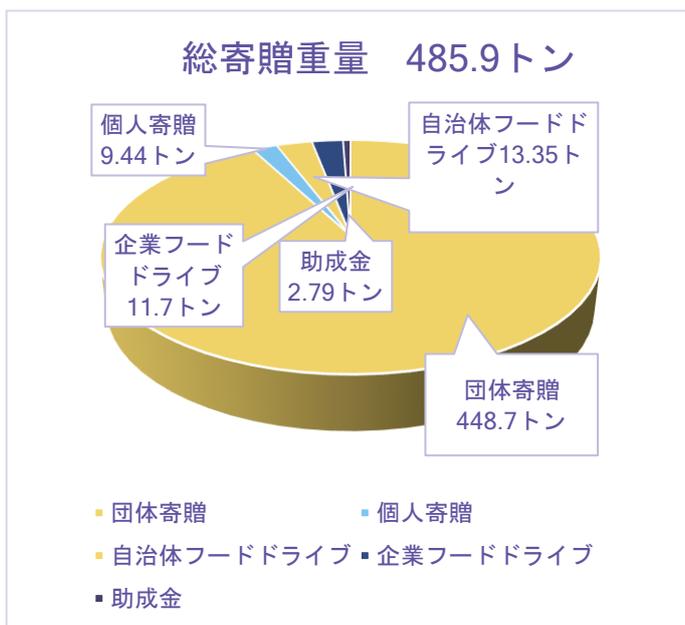
個人からの支援要請に応じて当団体から直接配達した支援

○連携支援 12.92トン

行政の窓口（保護課等）、地域包括などの連携窓口を通して支援した個人の支援

○団体支援 435.8トン こども食堂、被災地支援、ホームレス支援団体など様々な形で連携している団体に向けて行った支援

○こども支援 24.34トン 当団体が行う「ひとり親家庭支援」を含む、こども食堂やパントリー活動の支援



## 2023年度 総寄贈重量

### 【支援内訳】

○団体寄贈 448.6トン

企業からの備蓄品や規格外、賞味期限が近付いたものなど様々な形の物品寄贈

○個人寄贈 9.44トン

宮城県内の回収拠点に置かれたフードドライブや持ち込みで寄贈された物品

○自治体フードドライブ 13.35トン

富谷市、岩沼市、仙台市、名取市で設置されたフードドライブからの寄贈

○企業フードドライブ 11.7トン

個々の企業が集めてくれたフードドライブ品の持ち込みによる寄贈

○助成金 2.79トン

ひとり親家庭支援等にて助成金にて必要な食材を購入した総量



## 2023年度 総支援件数・総支援人数

支援方法	支援件数（件）	支援人数（延べ人数）
直接支援	208	433
連携支援	793	1255
団体支援	1910	224357
こども食堂等支援	1577	5111
<b>合計</b>	<b>4488</b>	<b>231156</b>

## 総支援人数・総支援重量 年度別推移



## フードロスの取り組み

### 各フードドライブ寄贈状況

フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらを取りまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。当団体では、現在県内外に55箇所以上のボックスを設置し、毎週定期的に寄贈品を回収し、検品して使用しています。また、その回収業務や団体への配送をサポートしてくれている企業もあり、様々な形で協力して頂けるサポーターが増えました。



フードドライブ名（順不同）	年間（kg）
仙台市フードドライブ	10951
名取市フードドライブ	194
岩沼市フードドライブ	331
利府町フードドライブ	1674
富谷市フードドライブ	1878
ファミリーマート	806
フレスコキクチ	4908
第一生命仙台総合支社	686
KHB	230
タイヤワールド館ベスト	80
ヨークベニマル	1456
ビッグハウス	187
ランチ仙台（まちづくりスポット仙台）	228
トヨタ自動車東日本(株)	103
ネットヨタ	148
その他学校や企業等のフードドライブ	788
合計	25050(kg)

## 食品ロス削減推進サポーター

「食品ロス削減推進サポーター制度」は、食品ロスの削減を目指す一環として消費者庁が設けた制度です。この制度では、食品ロス削減のために積極的に取り組む個人や団体を「サポーター」として認定し、その活動を広めることで社会全体の意識改革を目指しています。当団体からも食品ロスに関わるサポーターとして 12 名の認定講座を行いました。

**食品ロスを減らしましょう**

あなたも1日でお茶碗約1杯分の食べものを無駄にしているかも?!

つながってます

**令和元年10月1日「食品ロスの削減の推進に関する法律」施行**

日本では、本来食べられるのに捨てられる食品、いわゆる「食品ロス」が年間で約600万トン発生しています。毎日、大型10トントラック約1,640台分の食品を廃棄している計算です。

消費者庁では、食品ロス削減に向けた様々な取組を実施しています。詳しくは、消費者庁ウェブサイトをご覧ください。

食品廃棄事業者も、廃棄在庫や返品等によって発生する食品ロスの削減に向けて動き出しています。消費者の皆様も、食品ロスの削減に向けてご協力をお願いします。

消費者庁

**食品ロスについて知ろう**

**食品ロスは？**

食べられるのに捨てられる食品ロスのこと。日本では、年約600万トンの食品ロスが発生しています。食品ロスの中には、食材がすぐ経ち捨てられている食品もあり、この状況を多くの方に知っていただくことが大切です。

**食品ロスの約半分は家庭から**

日本の食品ロス量 年約600万トンのうち、約300万トンは家庭から発生しています。日本人一人当たりを換算すると、年約50kg、毎日約150gの食品ロスを出している状況です。食品ロス削減のためには、家庭での取組が重要です。

**食品の期限表示を正しく理解する**

食品の期限表示は、「消費期限」と「賞味期限」の2種類があります。いずれも開封していない状態で、表示されている保存方法で保存した場合は期限が示されています。消費期限は、「食べても安全な期間」、賞味期限は、「美味しく食べることができる期間」です。賞味期限は、過ぎてもすぐに廃棄せずに自分で食べられるかどうかを判断することになります。

**食品ロス削減に効果的な方法**

ご家庭から食品ロスを計算し、削減するだけでも実行が出来ます。また、以下の取組も有効です。

- 賞味・消費期限が近い食品は積極的に食べる
- 賞味・消費期限が近い食品は積極的に食べる
- 賞味・消費期限が近い食品は積極的に食べる
- 賞味・消費期限が近い食品は積極的に食べる

**調理で作りすぎない 余ったら作り替える**

もし、食べきれなかった場合は、他の料理に作り替えるなど、製法や調理方法を工夫しましょう。詳しくはQRコードへ

和歌山県サテライトプロジェクトの取組内容はこちら（QRコード）



[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/pamphlet#leaflet](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/pamphlet#leaflet) 「消費者庁 HP より」



## 出前授業・講演

学校、商工会議所等・団体へのフードバンクの啓もう活動として、今年度は 14 回以上の出前授業・講演を行いました。フードバンクの活動内容を始めとして、SDGs、子ども食堂、居場所づくりなど、当団体に関わる様々な活動を皆さんに知って頂く貴重な機会となっています。またこの講演によってフードドライブ活動に挑戦する団体などもおり、フードバンク活動への協力のきっかけとなっています。

## その他の活動

### 被災地支援

2023年度は数々の災害が起きた年でした。豪雨災害の起きた山口県・秋田県への支援、

『令和6年能登半島地震』とそれぞれに支援活動を行ってきました。『令和6年能登半島地震』では、宮城県から災害支援を行うために現地入りする団体を通じて、食糧や衛生用品の支援を継続的に行うため、全国子ども食堂支援センター・むすびえによる「令和6年能登半島地震子ども食堂応援基金」を活用しました。発災直後は、当団体のスタッフも土日返上で支援のための物資を仕分け、積み込み作業を行いました。



### 表彰・感謝状他

- ・令和5年度仙台市公衆衛生関係功労者等表彰にて「リサイクル推進活動優良団体感謝状」受賞
- ・一般財団法人 愛知揆一福祉振興会様より「みやぎ社会貢献助成」受賞
- ・七十七銀行「SDGs 私募債」を活用した株式会社ボルテックス様による精米機他 13 点の寄贈
- ・みやぎゼロカーボンチャレンジ 2050 県民会議会員



# コミュニティ事業

当団体の「コミュニティ事業」は、様々な形でフードバンクに繋がるきっかけとして、また「誰も取り残されない社会」への試みとして、こども食堂の他にも地域の居場所作りや学習支援などを包括的に行っています。今年度は、「公益財団法人 子ども未来支援財団（旧：公益財団法人 東日本大震災復興支援財団）子どもサポート基金」の助成を受け、「こども食堂・パントリー活動」と「プレーパーク活動」を実施できたことを感謝致します。

## みんなでがんばろう●日本

公益財団法人 子ども未来支援財団

### こども食堂・ひとり親家庭支援

コロナ禍の中、当団体のこども食堂はより優先度の高いひとり親家庭支援へと変化していきました。

2022 年度までコロナ感染症が原因での減給や失業などで困窮に陥っていたひとり親世帯は、今年度は物価の高騰や光熱費の高騰のあおりを受け、さらに生活苦の家庭が増えました。日々の生活費に悩み、厳しい生活の中で、育ち盛り子どもたちを抱えて食費を削らざる負えない状況に陥っています。またコロナ 5 類以降の学校生活の通常化に伴い、修学旅行や課外学習などが再開し、必要経費が増え、学費の出費に頭を悩ませている家庭も多く見られました。そして困窮からの精神的病を患う親も多く見受けられ、食支援を通して見守ることの大切さを感じます。知人・友人の紹介から、ひとり親家庭の新規希望者も毎月増える傾向にあり、2020 年度夏当初 30 世帯対象で始めた食糧支援のフードパントリーは現在毎月 100 世帯を超え、今や 110 世帯を継続的に支援しています。今後も物価 高騰や光熱費の高騰の勢いはおさまらず、その場しのぎの経済対策ではカバーしきれない、ひとり親世帯の慢性的な困窮の問題があります。

### 2023 年度ひとり親家庭平均値（110 世帯対象のアンケートより）

こどもの数	2.1 人
こどもの年齢	11.53 歳
児童扶養手当	47080 円
児童手当	16732 円
その他の収入	104648 円
平均月収	168460 円
平均年収	2021520 円
フードパントリー／平日のお弁当支援人数	延べ 5111 人
ひとり親家庭支援重量	24.34 トン



## 「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査」

### ～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～

孤独・孤立対策に取り組む団体（以下、実行団体）が、地域の多様な主体と連携し、孤独・孤立の日常生活領域における予防に資する「福祉を超えた」協働関係及び取組のモデルを構築することとして、全国こども食堂支援センター・むすびえの委託によって当団体のこども食堂で「アート食堂」を開催しました。



## プレーパーク

プレーパークは、「冒険遊び場」と呼ばれ、通常の公園のようにブランコやシーソーなど既存の遊具ではなく、子どもたちが自由な発想で遊び、作り上げていく遊び場です。当団体では今年度より『とみやっこプレーパーク』として、富谷市の協力を得て公園を使い、週1回のペースで子どもたちに遊び場を提供してきました。

年間を通して全39回の開催で、地域のこどもから大人まで延べ1259人の利用がありました。

【協力団体】 認定NPO法人 冒険あそび場－せんだい・みやぎネットワーク、一般社団法人アート・インクルージョン、一般社団法人アルディエンテスポーツクラブ、富谷高校 JRC 部他



## 主なフードバンク啓もう活動・イベント他

- 2023年6月2日「瑞宝太鼓」 富谷第二中学校 富谷特別公演
- 2023年9月3日「みんなのマルシェ in プランチ仙台」
- 2023年10月1日「富谷宿 街道祭り」
- 2023年10月28日「グローテック株式会社 presents 先生はプロ選手！フットサル&たいそう教室」



## みやぎ子ども食堂ネットワーク

「みやぎ子ども食堂ネットワーク」は2021年2月に発足し、宮城県内の子ども食堂間の交流の場、支援や利用者の輪を広げる目的で作られたネットワークです。当団体は代表団体として2022年度より宮城県子育て推進課の委託を受け、みやぎ生協と共にネットワーク事務局を担ってきました。

現在、所属団体は県内82団体となり、年間を通して各団体に寄贈した総重量は98トン、総額926万円のご寄付を頂きました。



## 【2023年もありがとうございました！】



グローテック株式会社様より  
昨年度に続き、  
ひとり親家庭支援で対象の  
新一年生に9名に向けたランドセルの  
ご寄付を頂きました。



みやぎチャレンジプロジェクトにて  
皆様からのご寄付として  
¥1758408 を頂きました

アゲイン  
あんずゆき / 作 丹下京子 / 絵



2023年7月  
フーレバル館より、あがいんを参考にした書籍  
が発刊されました。  
あんず ゆき 作 / 丹下京子 絵



(株)コンセプト様より  
チャリティーイベント「FAITH,&LOVE  
Vol.28」によるご寄付総額  
¥1,439,750